

「オシヤレ反射板」が第1号

相模原市の青年起業家支援



反射板グッズと海木さん

相模原市の起業家支援事業で、初めての支援者「、アクセサリ」販売を目指す海木麻子さん(25)(東京都新宿区)が決まった。交通事故防止用の反射板を使ってアクセサリを作り、おしゃれと安全の「一挙両得」を目指すという。海木さんは「支援してもらったばかり、理が非でも成功させます」と胸に希望を膨らませていく。

同市は昨年、「青年アントレプレナープログラム」を

東京のアクセサリ販売経営者

事故防止用に開発

「夢」を創設。募集したところ「1件の応募があり、審査の結果、「成功の可能性も高い」として、海木さんが支援第1号に選ばれた。

反射板を使ったアクセサリは、スウェーデン人の騎乗者の一言がきっかけだった。日本では反射板を使った商品はない。海木さんは「お年寄りや子供の声を聞き、いろいろなアクセサリのグッズをそろえたい」と、おしゃれを兼ねながら事故防止に役立てば最高です」と、やる気満々だ。

海木さんは「日本でも売れるはず」と見本を取り寄せ、事業化を決心。今年2月、都内に新会社「スカンシヤップ」を設立した。先月から輸入、販売を始めており、自社製品の開発も進めている。

海木さんは大学卒業後、0し勤務を経てテンプル大日本校に通い、英語を学んだ。そのころから、自分の手で事業を起こすのが夢だったという。

市は、起業奨励金など10万円を支給するほか、相模原を中心とした地域での販路開拓にも協力していく。